

Composer バージョン 9.0 リリースノート

Copyright 2026, Symetrix, Inc.

更新日：2026年5月5日

このファイルの内容の概要

はじめに

I) 以前のバージョンからの変更点

II) 既知の問題

III) インストールに関する注意事項

IV) ファームウェアのアップグレード

V) 以前のバージョンのComposerのサイトファイルに関する問題

VI) Danteスイッチモードと冗長モードの切り替え

はじめに

このドキュメントは、Composer バージョン 8.5 からアップグレードするユーザーを対象としています。Composer を初めてご利用になる方や、それ以前のバージョンからアップグレードされる方は、以前のバージョンのリリースノートもご参照ください。リリースノートは Symetrix の Web サイトに掲載されています。

I) 以前のバージョンからの変更点

9.0 主な新機能と変更点

- Server D100のサポートが追加されました
- システムマネージャーに新しい「オーディオネットワーク」タブを追加し、1つのボタンですべてのSymetrix xIOデバイスを更新できる機能など、Dante関連の機能を拡充しました。
- Server Matrixに新機能と改善点を追加し、より大規模なマトリックスへの対応、ユーザーマトリックスビューの保存・呼び出し機能の向上、グラフィックスの改善、およびツールチップの追加を実現しました。
- Composerにおける大規模サイトファイルの処理を大幅に改善し、モジュールのスクロール、選択、移動が可能になり、ファイルサイズも縮小されました
- デバイスの検索時に、既存のネットワーク名を保持する新機能を追加しました。
- 詳細についてはヘルプファイルを参照してください

9.0.3 修正および改善点

Composer 9.0.3 では、以下の問題が修正または改善されました：

- Radius NX：D100と同様に、Composerとのすべてのファイル転送（サイトファイルのプッシュ/プルおよびファームウェアのアップグレード）に暗号化されたSFTPを使用するようになりました。セキュリティが強化されたため、暗号化のオーバーヘッドにより、ファイル転送に**以前よりかなり時間がかかるようになりました**。
- ファームウェアバージョン 9.0.3 以上の Radius NX デバイスでは、ダウングレード操作を行うために Composer 9.0.3 以上が必要です。
- 暗号化されていない Media Manager FTP アクセスは、デフォルトで無効化されていますが、「ハードウェアのプロパティ」から有効にすることができます。詳細については、ヘルプファイルを参照してください。
- Server D100：Super Module を経由してオーディオが通過しない場合があります。
- Server D100：複数のソースが使用されている場合、Dante Network Rxモジュールがオーディオを通過させない場合があります。
- Server D100：ユニットタイプがServer D100に変更されたユニット内にデュアルモノモジュールが含まれている場合、Composerがクラッシュする可能性がある
- Server D100：ルーティング可能な非Symetrix製Danteデバイスのサポート数を128台から256台に増やしました。
- Server D100：2番目のDSPコア上で動作するモジュールのコントロールが含まれるプリセットが、正しく読み込まれない場合があります。この修正を有効にするには、ファームウェア更新後にSiteを再ブッシュする必要があることにご注意ください。
- USB ドライバー：最新の Windows 11 リリースに対応した改善を含む最新バージョンに更新しました。
- その他の軽微な修正および改善
- ヘルプファイルへの追加および改善

9.0.2 の修正および改善点（非公開版）

Composer 9.0.2 では、以下の問題が解決または改善されました。

- Server D100：Composer を使用して Server D100 のファームウェアをアップグレードした後、Dante デバイス名がデフォルト値にリセットされる問題。
- Server D100：TCP経由でのServer D100の制御において、コマンドが実行されない問題。
- Server D100：スーパーマトリックスディレイから、断続的に「ロボットのような」音やデジタル歪みが生じる。
- Server D100：Danteバス数が多すぎると、信号が失われることができました。

9.0.1 修正および改善点

Composer 9.0.1 では、以下の問題が解決または改善されました：

- AV Ops Center：デバイス名に非ASCII文字が含まれている場合、デバイスの割り当てが正常に機能しませんでした。Anttiさん、ありがとうございます！
- Composer：自動保存の復元プロンプトにサイトファイル名が正しく表示されない
- Composer：Composerオンライントレーニングのリンクが機能していなかった
- Composer：名前同期時に、スペースを含むネットワーク名が正しく更新されないことがあった
- Composer：名前に非ASCII文字が含まれている場合、カスタムインテリジェントモジュールが正常に機能しない
- Composer：拡張ASCIIおよびUnicodeのユーザー名とパスワードを適切にサポートするよう、メディアマネージャーを改善しました
- Composer：大容量のサイトファイルのプッシュに問題が生じる場合があった
- Composer：一部のモジュールでミュートインジケーターが機能しない
- Composer：Composer 診断で、サーバー D100 の PSU ステータスが正しく表示されませんでした
- DSP：メールモジュールが、正しい認証情報で正しく設定されている場合でも、動作せずエラーが表示されることがありました
- Prism：TCPポート22を閉じています。注：変更を有効にするには、ファームウェアのアップグレード後に再度再起動を行う必要があります。
- RadiusNX：未使用のIPv6 アドレス指定を無効化
- セキュリティ：Server D100 および Brooklyn 3 デバイスにおける、深刻度の高いDoS 攻撃の潜在的な脆弱性に対処しました。実環境での悪用事例は確認されていません。
- Server D100：AV Ops が温度や Dante 情報を報告しない問題
- サーバー D100：D100 AEC アルゴリズムにおいて、コンフォートノイズが常に有効になりました。これにより、アルゴリズム全体のパフォーマンスが向上します。Composer のモジュールから CNG ボタンが削除されました。
- サーバー D100: 冗長 Dante モードが有効で、イーサネットケーブルが接続されている場合でも、Dante セカンダリジャックの表示が常に「無効」となっていた

- サーバー D100：診断モジュールに誤った DNS 2 値が表示される問題
- サーバー D100: フィードバックファイターの帯域幅が、リモート制御を許可していませんでした

- Server D100: GEQの「アクティブ」と「非アクティブ」間のオーディオ遷移を改善しました
- Server D100：サイト、特にインテリジェントモジュールが多数あるサイトへのプッシュ速度を改善しました。
- Server D100: X-input Logic モジュールの「反転」 ボタンが機能していなかった。
- Server D100: 特定の数のTxバスが存在する場合、Dante Rxに重大な問題が発生していた
- Server D100: デュアル・モノ・モジュールのメーターが正常に動作していなかった
- Server D100：「プッシュされたパラメータ値を復元」がチェックされている状態で、再生モジュールが独立して動作しない
- サーバー D100: デバイスの起動メニューで「IPのリセット」が機能するようになりました。
- Server D100：Server D100は、DanteポートへのWebトラフィックに対して誤った応答を行っていました。
- Server D100：一部のDSPモジュールは、バイパス時に完全に透過的ではありませんでした。
- Server D100: 入力が出力数より多い場合、Super Matrixがオーディオを正しく出力しない。
- Server D100: 信号がスーパーモジュールを通過する際、Wire Meterにオーディオが表示されないことがありました。
- xIO XLR: カスタムチャンネルを持つ xIN XLR ユニットとのサブスクリプションが確立できませんでした。
- その他の軽微な修正および改善
- ヘルプファイルへの追加および改善

9.0.0 の修正および改善点

9.0.0 は、Server D100 をご利用のお客様のみを対象としています。他の DSP での動作についてはまだ十分にテストされておらず、Server D100 以外の DSP での本番環境での使用は推奨されません。

Composer 9.0.0 では、以下の問題が解決または改善されました。

- AV Ops Center：一部のサードパーティ製デバイスとの互換性の問題を修正しました
- AV-Ops Center：DNS サーバーの欠落または無効化により、デバイスから AV-Ops Center にアクセスできない場合のエラー処理を改善しました。
- Composer：互換性を向上させるため、一時フォルダの保存先を AppData/Local フォルダに変更しました
- Composer：AV-Ops Center Managerに「すべて解除」 オプションを追加しました
- Composer：「xIO Updater/Configurator」を使用した xIO ラックユニットのプログラミングにおけるパフォーマンスと信頼性を向上させました
- Composer：プロパティからDanteデバイスの位置情報単位を変更できる機能を追加しました。これは、変更が必要なDanteデバイスが多数ある場合に特に便利です。なお、このフィールドを使用して、最初に位置情報単位を設定することはできません。
- Composer：デバイスのツールチップにDante IPアドレスを表示するようにしました。
- Composer：DSPを特定する際、「特定」ダイアログに「ネットワーク名を同期」するオプションを追加しました。
- Composer：AV-Ops Centerの「すべてをクレーム」および「クレーム解除」コマンドに、パスワードのセキュリティチェックを追加しました。
- Composer：Composerでは、ファイル名の後にコマンドラインオプション「-Push」を指定して起動することで、特定のサイトファイルを開き、即座にプッシュすることができます。これは自動化に役立ちます。
- Composer: ごくまれに、インテリジェントモジュールを削除または操作できない場合があった問題を修正しました。
- Composer: 顧客固有のサイトで発生していたクラッシュを修正しました。Brianさん、ありがとうございます。
- Composer: サイトビューにおいて、数字キーを押して複数の接続線を描画した際、一部のネットワーク I/O ポイント間で 1:1 の接続が描画されない問題を修正しました。
- Composer：「プッシュされたパラメータ値を復元」サイトオプションがxIO で機能しない問題を修正しました。
- Composer：32バンドEQグラフがWindows版SymVueに正しくエクスポートされない問題を修正しました。
- Composer：画像ファイルの保存場所が指定されていないと、SymVue へのエクスポートが失敗する問題を修正しました。
- Composer：コントロール画面のテキストボックスがデフォルトの色に戻ってしまう問題を修正しました。
- Composer：一部の Unicode 文字を含む記録および再生パスに関する問題を修正しました
- Composer：非常に大規模なレポートにおけるパフォーマンスの問題を修正しました。
- Composer：「Store Module Settings in Preset X」メニューを選択する際にControlキーを押したままにすると、操作後にプリセット番号が繰り上げられます。1000に達すると、1に戻ります。この機能は、モジュールビュー、コントロール画面ビュー、デザインビューのいずれからも利用できます。
- Composer：大型LEDのグラフィックが改善されました。
- Composer：特定の状況下で、インテリジェントモジュールのスクリプトの保存場所を変更できない場合があります。
- Composer：Site Toolkit 内の DSP の順序を再編成しました。
- Composer：スーパーモジュールが最大512x512のI/Oに対応するようになりました。
- Composer：ライブラリに3つの新しいスーパーモジュールが追加されました：Multiband Compressor 7、Single Sample Glitch Detector、USB Reboot Trigger
- Composer：「紛失したパスワードの回復」ダイアログを更新しました。
- DSPファームウェア：プリセットの読み込みが遅くなる場合があった問題を修正しました
- DSPファームウェア：極めて稀に、AV-Ops Centerへのデバイス報告が停止してしまう問題を修正しました
- DSPファームウェア：スペースを含むパスワードを正しく処理できるよう、Eメールモジュールを改善しました
- DSPファームウェア：GEQモジュールのノイズフロアを改善しました。
- DSPファームウェア：Pannerモジュールにおいて、左右の端でのDSPの一貫性を改善しました。
- DSP Web Media Manager - 特定のフォルダやファイルを削除または移動しようとした際の、ファイルの処理と保護を改善しました
- ファームウェア：AV-Ops Center にアップロードされたログが切り捨てられることがある問題を修正しました
- インテリジェントモジュール：ラジオボタンの最大サイズを64に拡大しました。
- Lua API：「Device.LocalUnit.TimerResolution」、 「Device.LocalUnit.InterfaceVersion」、および「Device.LocalUnit.FirmwareVersion」がAPIに追加されました。使用方法についてはヘルプファイルを参照してください。
- MediaManager - 特定の特殊文字を含むファイル名での再生に関する問題を修正しました
- MediaManager - 複数のファイルを一度に削除できるようになりました
- 公開用リリースノートには含まれません。
- Radius NX：フィードバックを利用する大規模なスーパーマトリックスを含む設計において、「UnMute All」の実行に予想以上に時間がかかる問題がありました。
- SymVue - 録画/再生モジュールの Media Manager が SymVue から開くようになりました
- SymVue および Composer: ノブコントロールの目盛りの色と目盛りのドットが、Composer で選択された色に正しく反映されていませんでした
- Tシリーズ：接続されたDSPに無効な時刻が設定されていると、Tシリーズが接続を失うことがあるというまれな問題を修正しました
- USB ドライバー：互換性の向上とバグ修正を行い、更新しました。Composer のインストール先の「Drivers」 フォルダからインストールしてください。
- Wシリーズ：一部のWシリーズのボタンメニューに表示される「オン」および「オフ」のテキストまたは記号の値が、壁面リモコンとComposerの両方で逆になっていました。この問題は修正されました。これは、入力セクターボタンなど、単一のボタンでありながらラジオボタン制御のように動作する特定のボタン割り当てにのみ適用されます。これらのボタンは押すことができず、押した状態を解除することはできません。 サイトファイルで正しく表示されるよう値を反転させていた場合、アップグレードにより値が元に戻され、誤った表示となるため、修正が必要となります。これらのボタンのLEDのオン/オフ状態も、壁面ユニットでは反転していましたが、Composerのシミュレーションでは正しく表示されていました。この問題も修正されました。
- W1：プロパティで「アイドル時に日付時刻を表示」が False に設定されている場合、画面に他の設定済みのアイドル UI が表示されない問題を修正しました
- xIO Bluetooth - DSPを使用せずにComposerでプログラミングした場合、xIO BTは電源の再投入後にPINをリセットすることがあります
- xIO Bluetooth：xIO Bluetoothインテリジェントモジュールに、新しいBluetoothデバイス「接続済み」LEDが追加されました。これにより、接続が確立された際にPINの変更など、開始または停止するアクションを作成できます。これを利用するには、既存の設計内のIMを、ツールキットに含まれる新しいモジュールに置き換える必要があります。
- その他の軽微な修正および改善

- ヘルプファイルへの追加および改善

II) 既知の問題

9.0 版の新たな既知の問題

- ユーザーコレクションからサーバーD100にインテリジェントモジュールを追加すると、そのモジュールが動作しなくなります。コンピュータのファイルシステムから手動でモジュールを追加すれば、引き続き正常に動作します。
- Composer - AV-Ops Center がデバイスの置換を正しく実行しません。古いデバイスを削除してから新しいデバイスを追加することで、この問題を回避できます。
- Composer - あるユニットから別のユニットへデュアルモノモジュールをコピーすると、コンパイルおよびプッシュに失敗します。
- Composer - Composerをデフォルト以外の場所にインストールすると、ファームウェアのアップグレードに問題が生じる可能性があります。回避策：可能な限り、Composerをデフォルトの場所にインストールしてください。
- Composer - ユニットの静的 IP アドレスを無効なアドレスに設定してしまう可能性があります。この場合は、デバイスを工場出荷時設定にリセットしてください。
- コントロール画面の命名に関する問題 - ビリオド（「J」）を含むコントロール画面名は、404エラーの原因となる可能性があります。回避策：コントロール画面の名前を変更し、ビリオドをハイフン（「-」）に置き換えてください。これによりエラーを防止できます。
- D100 Composer - 非常に古いバージョンのComposerに付属するマトリックスミキサーは、D100とは互換性がありません。ツールキットに含まれる新しいマトリックスミキサーに置き換えることで、この問題を回避してください。
- D100 Dante ライセンスの削除 - AV-Ops Center で Dante ライセンスを削除しても、デバイスを再起動するまで変更は反映されません。
- D100：インテリジェント・モジュール数が多い場合の録音 - インテリジェント・モジュール数が 257 ～ 512 個と多い場合、録音が失敗することがあります。
- ファームウェアのアップグレード - ごくまれに、ファームウェアの更新が正常に完了しているにもかかわらず、Composerに「アップグレードに失敗しました」というメッセージが表示される場合があります。回避策：この現象が発生した場合は、警告が表示された後にサイトファイルのプッシュを試みてください。
- メディアマネージャー - ファイルを通常のフォルダから「プレイリスト」フォルダに移動すると、そのファイルはウェブ上で表示されなくなります。
- サーバー D100 - インスタントメッセージの「長文」入力は、依然として32に制限されています
- サーバー D100 - アクティブ化する対象がないにもかかわらず、Dante Activator に表示される
- サーバー D100 - スーパーモジュールを通過した信号の場合、ワイヤーメーターにオーディオが表示されないことがありました。
- Server D100 Dante Display - DanteとControlが同一ネットワークを共有している場合、Dante Controller上で本機が表示されてもTX/RXチャンネルが表示されないことがあります。これは、Danteの再接続後に、DHCPのデフォルトルート（同一NIC）がControlに割り当てられた場合に発生します。
- Tシリーズ - 「Transparent」がtrueに設定されている場合、Tシリーズではラジオボタンの背景が透明になりません
- Tシリーズ - ビデオストリームコンポーネントが、URLからの画像を正しく更新しない
- xIO XLR - リセットを行うIMが実行されていない場合、Push操作時にLEDが前回の色状態を表示し続けることがあります
- xIO XLR 2x2 - インテリジェント・モジュール - ミュート #1 が両方の出力チャンネルを制御します。もう一方のミュートは機能しません。

VoIPに関連する問題

- 1) 転送先としてスピードダイヤル番号が選択された場合、転送はブラインド転送として即座に完了します。
- 2) Composer サイトファイルをデバイスにプッシュすると、たとえ実際は米国でなくても、場所が「米国」であるとする VoIP カードログメッセージが生成されます。このログメッセージは問題ありません。
- 3) 回線上のローカル会議がアクティブな状態で、ローカル側でDTMF番号が押された場合、DTMF信号は、最も最近会議に参加した通話表示に対してのみ送信されます。2つの通話表示を使用して会議を確認する際、いずれかの通話表示（例：会議ブリッジ）がDTMF番号を受信することが重要な場合は、その通話表示を最後に追加してください。
- 4) VoIPカードのTelnetセッションには、ERR（エラー）として分類されているものの、実際のエラーを示していないログメッセージが含まれている場合があります。
- 5) ローカル会議で回線 2 の 2 つのコールアピランスが使用されており、1 番目のアピランスでの通話を「Call/End」ボタンを押して終了した場合、2 番目のアピランスでの通話は保留状態になります。この通話を再開するには、アピランス 2 の「Call/End」または「Hold」ボタンを押してください。
- 6) DTMFリレータイプがSIP INFOに変更された場合（デフォルト値は「Out of Band」）、通話用のSIPダイアログセッションで使用されるトランスポートタイプとは異なる場合、その回線に設定されたトランスポートタイプを使用してSIP INFOメッセージが送信されます。
- 7) デフォルトの DTMF リレータイプ「Out of Band」が使用されており、かつ「DTMF オン時間」の設定がデフォルト値の 150ms より長く設定されている場合、数字を素早く連続して押すと、送信ストリームで数字が欠落する可能性があります。
- 8) 「Country」パラメータが「オーストラリア」に設定されている場合、ローカルルームで再生される「着信音」および「通話中音」が、その国で想定される音とは異なります。「Country」パラメータが「Germany」に設定されている場合、ローカルルームで再生される「着信音」および「再発信音」の通話進行音が、その国で想定される音とは異なります。「Country」パラメータが「UK」に設定されている場合、「再発信音」の通話進行音が、想定される音とは異なります。これは通話のシンナリングには影響せず、ローカルルームで再生されるローカル生成の音響効果にのみ影響します。
- 9) Web管理ページで「自動応答」機能が有効になっており、ある通話アピランスで通話中の場合、別の通話アピランスで2件目の着信があり、それが自動的に応答されても、最初の通話は保留にはなりません。最初の通話は双方向音声で接続されたままとなり、2件目の通話には音声が入りません。会議室での利用においては、Symetrixでは「自動応答」機能を無効にしておくことを推奨しています。
- 10) Web管理ページで「自動応答」機能が有効になっている場合、自動応答の時間枠内、つまり通話が自動応答される前に、手動で通話に応答して保留にした場合、その保留中の通話は自動的に再開されます。
- 11) 「Web管理パスワードのリセット」ボタンを押してWeb管理パスワードをデフォルト値に戻した場合、設定はすぐには保存されません。システムを再起動すると、以前のパスワードで起動してしまいます。この問題を回避するには、パスワードのリセット後にファイルがフラッシュメモリに保存されるよう、Web管理画面の設定を変更してください。
- 12) VoIPカードのライン1に発信した遠隔側のユーザーが、同じVoIPカードのライン2へ相談転送を行っても、通話は転送されず、最初の通話は切断されます。
- 13) VoIPカードは、回線1または回線2の「サーバアドレス」フィールドが入力される前に、登録が成功したことを示す場合があります。ただし、このフィールドは通話の発信および着信に必須です。
- 14) 着信音や転送先の応答を待たずにユーザーが転送を完了する「ブラインド転送」機能は、実際には「セミアテンデッド転送」と同様に処理されます。転送先が通話に応答しない場合、転送先の相手は保留状態のままとなります。
- 15) 直接URIダイヤル文字列では、非標準のポート番号を指定することはできません。たとえば、1001@10.4.0.156:8325をダイヤルする場合、宛先ポートとして 8325 ではなく 5060 が使用されます。
- 16) ごくまれに、Web Adminで使用されるHTMLファイルが読み込まれない場合があります。その場合は、ブラウザを更新してWeb Adminを表示してください。
- 17) DTMFリレータイプを「In Band」（デフォルト値は「Out of Band」）に変更した場合、通話にG.722コーデックが使用されていると、送信されるDTMFトーンの持続時間が、Web管理画面で設定された「DTMF On Time」パラメータと一致しくなくなります。実際の持続時間は設定値よりも短くなるため、特定の遠端端末と正常に通信するためには、設定値を増やす必要がある場合があります。
- 18) ファームウェアのアップグレードを行った後に、VoIPカードを追加または交換した場合、そのVoIPカードには正しいWeb管理用ファイルが含まれていない可能性があります。VoIPカードを追加または交換した後は、そのユニットに対して手動でファームウェアのアップグレードを行う必要があります。

その他の問題

- 19) T-5およびT-5 Glassは、8.5～8.2から8.1または8.0へダウングレードすることはできません。ダウングレードを試みると、T-5の画面にSymetrixのロゴのみが表示される場合があります。デバイスの正常な動作を回復するには、8.2へアップグレードしてください。T-5を8.5-8.2からダウングレードする必要がある場合は、テクニカルサポートに連絡し、特別な手順についてご確認ください。

- 20) スイッチモードと冗長モードの切り替え時に、ユニットがDanteオーディオを転送できなくなる場合があります。変更方法については、以下の手順を参照してください。
- 21) Composerがデバイスを検出できない場合があります。場合によっては、Windowsファイアウォールの設定調整が必要になることがあります。Windowsファイアウォール > [詳細設定] > [受信ルール] > [新しいルール] を開きます。Composer81.exeへのパスを指定し、ルールを保存します。送信ルールについても同様に設定します。PCを再起動してください。
- 22) Radius NX で外部 USB ドライブにアクセスする複数の機能を同時に使用すると、パフォーマンスが低下する可能性があります。例としては、録音、再生、FTP やメディアマネージャーを介したファイルへのアクセスなどが挙げられます。理想的には、これらの機能の使用を一度に 1 種類、多くても 2 種類に制限してください。
- 23) Radius NXでのUSB録画は、1ファイルあたり4 GBまでです。それ以上の長時間の連続録画は分割されます。
- 24) Radius NXでの録音や再生に低品質の外部USBドライブを使用すると、パフォーマンスの低下、音声の途切れ、さらにはデバイスのリセットにつながる可能性があります。高品質のドライブのみを使用してください。
- 25) Media Manager では、米国以外の文字が含まれるプレイリストを編集することはできません。この問題を回避するには、FTP を使用して手動で編集してください。同様に、米国以外の文字が含まれるオーディオファイルも、Media Manager ではプレビューできません。
- 26) プリセットを使用してすべてのデバイスをミュートする場合、Attero Tech やその他のサードパーティ製デバイスはミュートされないことがあります。Dante トランスミッターはミュートされますが、Symetrix ユニットからオーディオを受信していないため、ほとんどの場合、事実上ミュートされた状態となります。
- 27) xIn、xOut、xIO、またはサードパーティ製のDanteユニットをネットワークに初めて接続した場合、Composerによって検出されるまでに最大2分かかることがあります。接続を解除した後も、最大1分間はComposer上に表示されたままになる場合があります。
- 28) Composerの一部のコントロールは、SymVueパネルに追加できません。完全なリストについては、ヘルプファイルの「SymVue」の項目を参照してください。
- 29) SymVue パネル内の大規模なボタンマトリックスは、パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。
- 30) 大規模なマトリックス・モジュールの設定を 100 以上のプリセットに保存すると、パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。
- 31) Shure マイク診断機能を含む SymVue パネルを複数インスタンスで開くと、パフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。SymVue で開いている Shure 診断コントロールの総数を最小限に抑えることをお勧めします。
- 32) SymVueのパネルと対応するコントロール画面で表示される周波数に、わずかな差異が生じる場合があります。例えば、英国仕様のEQ周波数表示において、コントロール画面に200.000 Hzと表示されている場合、パネルには200.002 Hzと表示されます。このような丸めによる差異は、EQ周波数の表示精度が非常に高いため目立ちますが、一般に0.002%未満であるため、実質的な影響はないと考えられます。
- 33) オクターブとQを切り替え可能なEQモジュールの場合、ラベルに「Octaves」と表示されていても、SymVueパネルには常にQ値が表示されます。このラベルはエクスポート時に作成されるものであり、モードが変更されても更新されません。最適な結果を得るには、SymVueにエクスポートする必要があるフィルタは、すべてQモードのままにしておいてください。
- 34) 背景画像があるコントロール画面では、ワイヤーフレームでコントロールをドラッグ選択すると画像も選択・移動してしまう可能性があるため、画像の上にコントロールをワイヤーフレームで選択することが困難です。この問題を回避するには、まず右クリックメニューから画像をロックします。その後、Alt キーを押したままワイヤーフレームでコントロールを選択してください。
- 35) DTMFデコーダモジュールでは、DTMFシーケンスをプリセットに保存することはできません。ただし、設定ファイルに保存することは可能であり、これにより、あるモジュールから別のモジュールヘシーケンスを移動させることができます。
- 36) 数値入力ボックスを、対応するフェーダーなしでコントロール画面に配置すると、正しく更新されない場合があります。この問題を回避するには、フェーダーも併せて配置してください。
- 37) Audinate社の「Dante Controller」ソフトウェアを介してDanteのルーティングや設定を変更すると、機能が正常に動作しなくなる可能性があります。Dante Controllerで行った変更は、Composerで行った変更と競合する可能性があります。最適な結果を得るためには、Danteハードウェアを再起動したり、Dante Controllerを使用して設定を変更したりしないでください。Dante Controllerは、モニタリングおよびトラブルシューティングのツールとしてのみ使用してください。
- 38) ARC-WEB ダイアラーにおいて、多数のスピードダイヤルに非常に長い文字列（合計で数千文字）が登録されている場合、ダイアラーが正常に動作しないことがあります。ただし、「通常の」使用状況では、この問題が発生する可能性は低いと考えられます。
- 39) xIO4 デバイス用の Dante カーネルファームウェアをアップグレードする際、Dante ネットワーク上に多数のユニットが存在すると、アップグレードが失敗したと報告される場合があります。ただし、新しいバージョン番号が表示されることから確認できるように、実際にはアップグレードは成功しています。この誤ったメッセージを表示させないためには、Dante ネットワーク上にその xIO4 ユニットと、1 台のロケータティング DSP ユニットののみが存在する状態で、各 xIO4 ユニートを個別にアップグレードしてください。
- 40) 特定の広告ブロック用ブラウザ拡張機能がインストールされている場合、Webモニタリングが正常に動作しないことがあります。ユニットのWeb GUIへのアクセスに問題がある場合は、すべての広告ブロック機能を無効にするか、ユニットのIPアドレスをホワイトリストに追加してください。
- 41) SymVueの制御画面に複数のUSB再生モジュールを追加する場合、制御画面をエクスポートする前に「コンパイル」または「プッシュ」を実行する必要があります。そうしないと、ファイルやプレイリストの選択コントロールがモジュールごとに個別に動作しなくなります。
- 42) 一部のxIO Bluetoothユニットの工場出荷時設定へのリセットを行うと、ファームウェアは出荷時のバージョンに戻りますが、デバイス名などの一部の設定はリセットされない場合があります。名前やその他の設定がリセットされない場合は、ユニットの電源が入っている状態でハードウェアのリセットボタンを10秒間押し続けることで、追加の設定リセットを行うことができます。ファームウェアバージョン2.17以下にリセットされたユニットの場合、ボタンを長押ししてのリセットは利用できません。そのため、ファームウェアの工場出荷時設定へのリセット後、すべての設定を手動で再設定する必要があります。いずれの場合も、名前やその他の設定データをリセットする必要がない場合は、この手順を行わなくてもユニットは正常に動作します。

III) インストールに関する注意事項

起動時に設定を自動的に読み込む既存のインストールをアップグレードする場合は、以下の手順を行うことをお勧めします。

1. **元のサイトファイル**（.symxファイル）**のコピーがあることを確認してください。** ローカルドライブにファイルが存在する場合は、手順2に進んでください。そうでない場合は、以前にインストールしたComposerを使用し、「**ハードウェア**」→「**システムマネージャー**」を選択してください。アーカイブされたサイトファイルが含まれているハードウェアを選択し、「オンラインにする（ユニットから取得）」を押してください。表示される指示に従って、アーカイブされたファイルをローカルドライブに保存してください。その保存場所をメモしておいてください。
2. 「ファームウェアのアップグレード」に移動し、「メモリの消去」をクリックして、「保存済みサイトファイル」**のみ**を選択し、「消去」を押して、自動設定の読み込みを無効にしてください。接続されているすべてのユニットについて、この手順を繰り返してください。
3. 以下の手順に従ってファームウェアをアップグレードしてください。
4. サイトファイル全体をハードウェアに再プッシュしてください。Composer 9.0でサイトファイルを開き、「**Hardware**」→「**Go On-line (Push Design to Hardware)**」を選択します（またはF4キーを押します）。

上記の手順に従って再ダウンロードを行うことで、ハードウェア上で実行されるDSPコードが、新しいファームウェアおよびComposerアプリケーションコードと連携するために適切なバージョンであることを保証できます。

バージョン 9.0 は、ハードドライブ上の以前のバージョンとは別の場所にインストールされます。バージョン 9.0 は、お使いの PC 上の以前のバージョンの Composer と共存可能であり、それらの設定に干渉することはありません。ただし、ハードウェアのファームウェアは、そのハードウェアと通信する Composer のバージョンと一致している必要がある点に注意してください。バージョン9.0は、バージョン9.0とともにリリースされたファームウェアが動作しているハードウェアとのみ通信します。同じハードウェアを使用しながらComposerのバージョンを切り替える場合は、その都度ファームウェアを変更することを忘れないでください。Composerはダウンロード時にこれを確認し、不一致が検出された場合は警告を表示します。

IV) バージョン 9.0 向けのファームウェアのアップグレード

重要：Composer バージョン 9.0 を実行するには、お使いのハードウェアデバイスのファームウェアを最新バージョンにアップグレードする必要があります。工場出荷時の新しいデバイスにこのソフトウェアが同梱されている場合は、ファームウェアのバージョンはすでに正しい状態になっています。ただし、既存のデバイスで使用している場合は、ファームウェアをアップグレードする必要があります。（最新リリースバージョンに関する情報は、[Symetrix のウェブサイト](#)で常時確認できます。） デザインをハードウェアに書き込もうとすると、ファームウェアのバージョンが自動的に確認され、アップグレードが必要かどうか通知されます。最新のファームウェアは、常にComposerのインストーラーに含まれています。

自動アップグレード機能を使用したファームウェアのアップグレード

1. 上記の「インストールに関する注意事項」に記載されている手順に従ってください。
 2. 付属のセットアップユーティリティを使用して、Composer 9.0 をインストールしてください。これにより、必要なファームウェアファイルがハードドライブにコピーされます。
 3. インストールしたばかりの Composer を起動してください。
 4. 通常の操作時と同様に、ハードウェアデバイスを接続してください。アップグレード中は、デバイスに接続されている *すべてのサードパーティ製オーディオデバイス、特にパワーアンプやスピーカーの接続を解除するか、電源を切ってください。*
 5. アップグレード対象のユニットがすべて含まれたサイトファイルがすでに作成されている場合は、そのファイルを開き、手順 7 に進んでください。そうでない場合は、アップグレード対象のユニットをすべて含む新しいサイトを作成してください。
 6. 各ユニットについて、「**ハードウェア**」→「**ハードウェアの検索**」を使用してネットワーク上でその位置を特定してください。
 7. **[ハードウェア]→[ファームウェアのアップグレード]** を選択します。**[自動アップグレード]** ボタンを押します。これにより、そのサイトに含まれるすべてのユニットがアップグレードされます。
- この手順で問題が発生した場合、またはアップグレードのプロセスをより細かく制御したい場合は、以下の手動操作手順をお試しください。

ファームウェアのアップグレード- 手動操作

1. 付属のセットアップユーティリティを使用して、Composer 9.0 をインストールしてください。これにより、必要なファームウェアファイルがハードドライブにコピーされます。
2. インストールしたばかりの Composer を起動してください。
3. ハードウェア機器を、通常動作時と同様に接続してください。アップグレード中は、お使いのデバイスに接続されている *すべてのサードパーティ製オーディオ機器（特にパワーアンプやスピーカー）の接続を解除するか、電源を切ってください。*
4. **[ハードウェア]→[システムマネージャー]** を選択します。**[ハードウェア]** タブを選択します。必要に応じて、[ネットワーク検索パラメータ] を変更して、対象のユニットを検出してください。
5. アップグレード対象のユニットをクリックし、「**ファームウェアのアップグレード**」ボタンを押してください。
6. 「Composer ファームウェアファイル」の下にある「**アップグレード**」ボタンをクリックします。ファイル選択ダイアログが表示され、ファームウェアファイルを選択できるようになります。デフォルトでは、C:\Program Files (x86)\Symetrix\Composer 9.0\Upgrade フォルダが表示されます。適切なファイルを選択し、「アップグレード」をクリックします。ダイアログボックスを閉じます。
7. デバイスが複数ある場合は、手順 5～6 を繰り返してください。

xln 12、xOut 12、xln 4、xOut 4、または xIO 4x4 デバイスのファームウェアのアップグレード

デザインをハードウェアに書き込もうとすると、ファームウェアのバージョンが自動的に確認され、アップグレードが必要かどうか通知されます。xln/xOut/xIO デバイスのファームウェアをアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

1. 付属のセットアップユーティリティを使用して、Composer 9.0 をインストールしてください。これにより、必要なファームウェアファイルがハードドライブにコピーされます。
2. インストールしたばかりのComposerを起動します。
3. xln/xOut/xIOデバイスを、通常動作時と同様に接続してください。各デバイスは、少なくとも1台のEdge、Radius、またはPrismユニットが含まれるDanteネットワークに接続されている必要があります。このユニットは、アップグレード対象のデバイスの位置特定ユニットとして機能します。
4. ロケータリングユニットと xln/xOut ユニットが含まれているサイトファイルがある場合は、そのファイルを開き、手順 7 に進んでください。
5. 新しいサイトファイルを作成し、ロケーション用DSPユニットと、アップグレード対象のすべてのユニットを追加します。
6. アップグレード対象の各デバイスについて、ユニットを右クリックし、「**ハードウェアの検索**」を選択します。テーブル内で対象のデバイスを見つけ、それをクリックし、「**ハードウェアユニットの選択**」を押してから「**閉じる**」を押します。
7. xln/xOut/xIOユニットを右クリックし、「**ユニットのプロパティ**」を選択します。
8. **[ファームウェアのアップグレード...]** ボタンをクリックします。Composer は、ユーザーファームウェアまたはカーネルファームウェアのアップグレードが必要かどうかを自動的に判断し、そのバージョンのComposerに適したバージョンを選択します。カスタムバージョンを選択するには、[バージョンの変更] ボタンをクリックし、アップグレードに使用するカーネルファイルまたはユーザーファイルを選択します。この操作は、テクニカルサポートの監督下でのみ行ってください。アップグレードファイルのファイル名には、そのバージョンが記載されています。**[ファームウェアのアップグレード]** ボタンをクリックします。
9. アップグレード対象の各デバイスについて、手順 7～8 を繰り返します。

RS-485 デバイスのファームウェアのアップグレード

新しいリリースには、Modular ARC ファミリーや ARC-ile などの Symetrix RS-485 デバイス向けの新しいファームウェアバージョンが含まれている場合があります。RS-485 デバイスのファームウェアをアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

方法 1- サイトファイルを使用する

1. 付属のセットアップユーティリティを使用して、Composer 9.0 をインストールします。これにより、必要なファームウェアファイルがハードドライブにコピーされます。
2. インストールしたばかりの Composer を起動します。
3. RS-485 デバイスを、通常動作時と同様に接続します。RS-485 デバイスには一意のアドレスを設定する必要があります（デバイス本体のロータリースイッチまたは DIP スイッチで設定します。詳細については、該当するハードウェアのクイックスタートガイドを参照してください）。
4. RS-485デバイスが接続されているすべてのユニットを含むサイトファイルがすでに作成されている場合は、そのファイルを開き、手順6に進んでください。そうでない場合は、アップグレード対象のRS-485デバイスが接続されているすべてのユニットを含む新しいサイトを作成してください。
5. **[ハードウェア]→[ハードウェア]→[ファームウェアのアップグレード]** を選択します。
6. RS-485デバイスが接続されているユニットを選択し、「ARCのアップグレード」を選択します。
7. RS-485 デバイスを選択し、「**ファームウェアのアップグレード**」ボタンを押します。
8. 適切なファームウェアファイルを選択し、「開く」をクリックします。
9. そのユニットに接続されている各RS-485デバイスについて、手順7および8を繰り返します。他のユニットにRS-485デバイスが接続されている場合は、手順6～9を繰り返します。

方法 2- システムマネージャーの使用

1. 付属のセットアップユーティリティを使用して、Composer 9.0 をインストールします。これにより、必要なファームウェアファイルがハードドライブにコピーされます。
2. インストールしたばかりの Composer を起動します。
3. RS-485 デバイスを、通常動作時と同様に接続してください。RS-485 デバイスには一意のアドレスを設定する必要があります（各ユニットのロータリースイッチまたは DIP スイッチで設定します。詳細については、該当するハードウェアのクイックスタートガイドを参照してください）。
4. **[ハードウェア]→[システムマネージャー]** を選択します。**[ハードウェア]** タブを選択します。必要に応じて、[ネットワーク検索パラメータ] を変更して、お使いのユニットを検出してください。
5. RS-485 デバイスが接続されているユニットをクリックし、「プロパティ」を選択します。
6. **[RS-485 リモートコントロール]** タブを選択します。RS-485 デバイスを選択し、**[ファームウェアのアップグレード]** ボタンを押します。
7. 適切なファームウェアファイルを選択し、「開く」をクリックします。
8. そのユニットに接続されている各RS-485デバイスについて、手順6および7を繰り返してください。他のユニットにRS-485デバイスが接続されている場合は、手順5～7を繰り返してください。

V) 以前のバージョンのComposerのサイトファイルに関する問題

バージョン9.0では、サイトファイル（.symxファイル）の形式が以前のバージョンから変更されました。バージョン9.0以降では、以前のバージョンのサイトファイルをすべて開くことができます。**ただし、バージョン9.0で保存されたファイルは、以前のバージョンでは読み込めない場合や、一部の機能が正常に動作しない場合があります。**

お使いのコンピュータでバージョン 9.0 と以前のバージョンの両方を並行して使用する場合、ファイル形式に関する問題を最小限に抑えるために、以下のガイドラインに従うことをお勧めします。

A) 以前のバージョンの設計ファイルをすべてバックアップしてください。

バージョン 9.0 を使用またはインストールする前に、バージョン 8.0 以前の設計ファイルを安全な場所にバックアップしておくことをお勧めします。万が一、他のすべてが完全に失敗した場合でも、それらのファイルさえあれば、以前の設定を復元する方法があります。なお、Composer 9.0 でファイルを保存し、以前のバージョンのファイルを上書きすると、以前のバージョンの Composer ではそのファイルが読み込めなくなる可能性があることにご注意ください。

B) バージョン9.0のデザインファイルには、以前のバージョンと同じファイル名を使用しないでください。

PC上でソフトウェアの両方のバージョンを並行して管理する場合は、保存するすべての旧バージョンのファイル名に、そのバージョンを示す表記を含めることを強くお勧めします。そうすることで、ファイルが混在してしまった場合でも、それらを区別できるようになります。

両方のバージョンを並行して使用しない場合でも、すべての設計ファイルの変換が完了し、バージョン9.0への移行が完全に完了するまでは、この方法を採用することをお勧めします。

C) ソフトウェアのインストール時には、デフォルトの保存先を選択してください。

Composer ソフトウェアのどのバージョンをインストールする場合でも、デフォルトのフォルダにインストールするようにしてください。これにより、複数のバージョンが互いに干渉することを防ぐことができます。

D) バージョン9.0 のソフトウェアを以前のバージョンのファームウェアと併用したり、以前のバージョンのソフトウェアをバージョン9.0 のファームウェアと併用したりしないでください。

ソフトウェアとファームウェアのバージョンは一致している必要があります！ソフトウェアとファームウェアのバージョンが一致していない状態でハードウェアにアクセスする操作として行うべきなのは、正しいファームウェアへのアップグレードのみです。通常、ファームウェアのバージョンが一致していなくてもアップグレードは可能です。もしそうではない場合は、リリースノートにその旨が明記されています。

VI) Danteスイッチモードと冗長モードの切り替え

Danteユニットがスイッチドモードに設定されたまま、冗長モード用に配線されている場合、モード変更ができない、または音声途切れるなどの問題が発生する可能性があります。デバイスを冗長モードからスイッチドモードへ、またはその逆に切り替える際は、必ず以下の手順に従ってください。スイッチドモードのDanteネットワークを使用しているか、デジチチェーン接続のDanteネットワークを使用しているかによって、2つの異なる手順が必要となります。

手順1ー スwitchドネットワーク、または2 台のユニット間の直接接続の場合

1. Danteネットワークは、冗長モードではなくスイッチドモードであるかのように配線してください。つまり、プライマリジャックにのみ接続してください。あるいは、DSPを経由して配置する必要がある冗長対応の機器をお持ちでない場合は、Danteネットワークの接続を完全に解除してもかまいません。外部スイッチを使用せずに3台以上のデバイスを使用する場合は、以下の手順2に従う必要があります。
2. Composerで、[Tools] → [Dante Flow Manager] → [Configure Dante] の順に選択します。状況に応じて、「Redundant Network」または「Switched Port」を選択してください。
3. ユニートをオンラインにします。Danteユニットがモードを変更するため、通常より少し時間がかかります。
4. ユニートの電源を切ります。
5. 新しいモードに合わせて、Danteネットワークを適切に配線してください。冗長モードに切り替える場合は、プライマリとセカンダリを2台のユニット間で接続するか、別々のスイッチに接続してください。
6. ユニートの電源を入れてください。
7. 再度、「オンライン」ボタンを押してください。

手順2ー デジチチェーン接続

1. 最初の2台のユニットのプライマリジャックのみを、プライマリ同士で接続してください。
2. Composerで、[Tools] → [Dante Flow Manager] → [Configure Dante] の順に選択します。デジチチェーン接続では、スイッチドモードのみがサポートされている点に注意してください。「Switched Port」を選択します。
3. サイトファイルで、最初の2台のユニット以外のすべての設定を無効にしてください。
4. ユニートをオンラインに切り替えてください。Danteユニットがモードを切り替えるため、通常より少し時間がかかります。
5. 2台目のユニットを取り外し、3台目のユニットのプライマリを1台目のユニットのプライマリに接続してください。
6. サイトファイルで、接続された2台のユニットのみを有効にしてください。
7. オンライン状態に切り替えてください。すべてのユニットについて、手順5〜7を繰り返してください。
8. ユニートの電源を切ります。
9. すべてのユニットを接続します。
10. ユニートの電源を入れます。
11. サイトファイル内のすべてのユニットを有効にしてください。再度、オンラインにしてください。